

仙台宣言

2011年3月11日、私たちは未曾有の大震災に見舞われました。

生きるために必要なもの、当たり前にあったものが消え、明日への希望も失われてしまいました。

暗闇に明かりが灯り始めた頃、オーケストラは動き出しました。

悲しみや恐れ、そして傷付いた心に寄り添う優しい音色は、やがて人々を励まし、生きる希望を呼び戻す心強い音色へと広がって行きました。音楽に耳を傾ける余裕の無かった人々も、いつしか心を満たすために集まって来るようになりました。

困難な中でも「音楽の力」の持つ素晴らしさを信じ、人間がより人間らしく生きていくためには「音楽」が欠かせないことを、勇気をもって証明してくれたオーケストラを心より誇りに思います。

「音楽の力」を信じ、ファンクラブの活動を通じてオーケストラを全力で支え、ともに歩み続けることをここに誓います。

2013年11月23日

日本プロオーケストラファンクラブ協議会

(仙台フィルハーモニークラブ起草)

仙台宣言の説明

2005年にJOFCが正式に発足してから、各地域のオーケストラと聴衆を支援するためのさまざまな活動をしてまいりました。

そのような中で東日本大震災が起きました。生命、生活という、「音楽」以前のものが消え始めていた時、私たちが愛する仙台フィルは、まず被災者の「心」を取り戻す活動を始めました。それが、どれだけ貴重で感動的だったものか、実際に体験した私たちには、一生忘れられないものになりました。

仙台フィルのそのような被災地での活動が広まり、日本各地のオーケストラ、そしてファンクラブのみなさまから、たくさんの形でご支援をいただいたことは、被災者ならびに音楽に携わる人々はもちろん、私たちファンクラブにとっても感激そのものでありました。心から感謝申し上げるとともに、素晴らしい「音楽の力」が、どれだけ大きなものだったか、そして、その「力」が、どれだけ被災地の復興、被災者の心に力を与えるかということ、JOFCの皆様、そして全国の音楽を愛する方々にもぜひ知っていただきたいという思いから、この仙台宣言を起草したものです。

仙台フィルハーモニークラブ